

近松関連年表

●は近松自身に関する事項、●は近松の家族に関する事項、を表す。

近松年齢(満)

慶長五年(一六〇〇)

関ヶ原合戦。

福井藩成立。初代藩主結城秀康、石高六十八万石。

八年(一六〇三)

江戸幕府成立。

元和元年(一六一五)

大坂夏の陣。福井藩兵一番乗りし、大手柄。

正保二年(一六四五)

丹生郡吉江を中心に吉江藩成立。藩主は松平昌親、石高二万五千石。

承応二年(一六五三)

出生

近松、吉江藩士杉森信義の次男として福井で出生。

幼名次郎吉、元服後信盛。通称平馬。

明暦元年(一六五五)

二歳

松平昌親が、吉江藩に初入封、杉森信義もこれに従う。

杉森一家も吉江に入る。

寛文元年(一六六一)

福井藩、日本で最初の銀札(藩札)を発行。

四年(一六六四)

十一歳

信義が吉江藩に仕えていたことが確認できる。

これ以後、父が浪人し、一家は京都へ移住。

信盛は一条禅閣恵観などの公家に仕える。

十一年(二六七二) 十八歳

俳句集『宝蔵』に信盛の名で一句入集する。

延宝二年(二六七四)

吉江藩が廃藩。

八年(二六八〇)

徳川綱吉、五代將軍となる。

天和三年(二六八三) 三十歳

近松作『世継曾我』が宇治座で上演。

貞享元年(二六八四)

竹本座旗揚げ、竹本義太夫『世継曾我』を語る。

三年(二六八六) 三十三歳

『佐々木大鑑』にはじめて「作者近松門左衛門」と署名。

四年(二六八七) 三十四歳

生類憐みの令発布。

父信義没(六十七歳)、京都本圀寺に葬る。

(これ以前、兄智義没(三十四歳)、本圀寺に葬る。)

元禄二年(二六八九)

松尾芭蕉が『奥の細道』の旅に出発、越前に来る。

六年(二六九三)

井原西鶴没(五十二歳)。

七年(二六九四)

松尾芭蕉没(五十一歳)。

十二年(二六九九) 四十六歳

役者評判記『鋸末』に「狂言作者 近松門左衛門」と載る。

十五年(二七〇二)

赤穂浪士の討ち入り。

十六年(二七〇三) 五十歳

曾根崎の森でお初・徳兵衛心中事件。すぐに大坂竹島座で歌舞伎化。

竹本座でも近松作『曾根崎心中』を上演。

宝永三年(二七〇六) 五十三歳

近松、この年、京都から大坂に移住する。

宝永六年（一七〇九）

徳川家宣、六代將軍となる。

坂田藤十郎没（六十三歳）。

正徳元年（一七一二）

宇治加賀掾没（七十七歳）。

三年（一七一三）

徳川家継、七代將軍となる。

四年（一七一四）

竹本筑後掾没（六十四歳）。

五年（一七一五）六十二歳

竹本座近松作『国性爺合戦』で十七ヶ月の長期興行。

享保元年（一七一六）六十三歳

弟岡本一抱没。

徳川吉宗、八代將軍となる。この頃、江戸で義太夫節流行。

母死去、尼崎広濟寺で法要を営む。

五年（一七二〇）

鯖江藩成立。初代藩主は間部詮言、石高五万石。

七年（一七二二）六十九歳

近松、知人への手紙で体の衰弱を訴える。

八年（一七二三）

享保改革の一環として心中物読売の禁止令。

心中物の出版・上演の禁止令。

九年（一七二四）七十一歳

竹本座『関八州繫馬』、近松最後の浄瑠璃となる。

大坂大火、竹本・豊竹両座ともに類焼する。

近松、辞世文を書く。

九年十一月二十二日

近松門左衛門没(七十一歳、数え年で七十二歳)。

尼崎広濟寺、大坂谷町法妙寺に葬る。

法名「阿耨院穆矣日一具足居士」。